



令和8年3月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

西伊豆におけるムラサキウニ採捕活動

伊豆半島沿岸では、海藻群落が増少、消失する「磯焼け」が深刻化しています。

西伊豆町仁科地先の沿岸域では、テングサ類やアントクメといった海藻群落が増少傾向にあり、その要因の一つとして、約4年前から仁科沿岸で大量に見られるようになった「ムラサキウニ」による食害が考えられています。こうした状況を受け、伊豆漁業協同組合西伊豆統括支所は採貝藻漁業者やダイビングショップと連携してムラサキウニの採捕活動を実施しており、県もこの取組を支援しています。

採捕活動は、かつてテングサの好漁場であり「トンボロ現象」で有名な「三四郎島」周辺で実施し、令和6年度の採捕個数は約5,000個、令和7年度は約23,000個と積極的な採捕活動を継続した結果、CPUE（採捕者1人1時間あたり

採捕個数）は200個から123個に減少し、ムラサキウニ分布密度の低下に繋がりました。この取組効果と思われる現象が海藻群落でも見られはじめ、これまでほとんど海藻が生えていなかった岩場に今年の2月頃からテングサが繁茂するようになりました。これを契機に、より広範囲に海藻群落が回復するよう、県は引き続きこの取組を支援していきます。



写真提供：マリンステーション堂ヶ島

下田海中水族館でワカメ繁茂

平成29年9月から昨年4月まで続いた黒潮大蛇行による高水温の影響で海藻が生育できなくなったり、海藻を食物とする魚に食べられたりし、伊豆半島沿岸に生育するカジメやワカメ等の大型海藻がほぼなくなってしまいました。

そのような中、下田海中水族館でワカメが繁茂しているとの情報を得、2月12日に確認させてもらいました。写真のように立派なワカメがたくさん生育していました。こちらは天然の入り江を利用した施設で海と繋がっており、また、外海とは網で仕切りがあるため海藻を食べる魚が侵入できない状況にありました。このことが魚に食べられることなくワカメが生き残った要因ではないかと考えています。

今後、周辺海域へワカメが拡大していくことを期待します。



写真 栈橋に付着し、生育したワカメ

名誉漁業士の称号授与

2月6日、伊東市内で開催された県漁業士会通常総会において、高田充朗氏、新井俊文氏のお二方が名誉漁業士の称号を授与され、同時に吉野水産・海洋局長より長年の功績を称えた感謝状が手渡されました。

お二人とも漁業士会を定年退会となってしまわれましたが、これからも東部地区と県の漁業士会活動を見守っていただきたいと思います。



写真前列左：新井俊文氏、前列中央：高田充朗氏
名誉漁業士：65歳の定年を迎えるまで10年以上、指導漁業士として活躍し、漁業士会活動に大きく貢献された方に贈られる称号です

3月の予定 ●潜水調査（テングサ作柄調査ほか） ●下田市水産・海洋学講座（4日） ●キンメダイ種苗生産研究等報告会（5-6日） ●水産海洋地域研究集会（12日） ●水産多面的報告会・藻場相談会（16日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。